

## これでイイのか北岳のウルップ草

先週、仲間7名と日本第二の高峰北岳に広河原から上った。山は老若男女で溢れていた。この時期、山岳美は無論のこと、高山植物は見事で目を見張るものがある。

標高約3000mの肩の小屋に着いた。小屋の脇に目をやると、そこには「人に管理された」高山植物が咲き揃っていた。3年前に来た時は八月なのに、北岳特産の北岳草が咲いていた。北岳草の花期は、七月上旬までで八月には姿が消えてしまう。

実は小屋で人為的に雪を被せ開花を遅らせ、夏の登山客が増える時期に見られるよう「操作」していたのだ。この時期、北岳草が咲いていれば登山客は喜ぶ。しかし、今年はずっと瞠目することがあった。それは、もともと北岳に存在しない「ウルップ草」が何株か咲いていたのだ。関係者の話を総合すると、

1. ウルップ草は、八ヶ岳から移植したもの。
2. この行為は、数年前から行なわれている。
3. 関係者が注意しても聞き入れない。
4. 環境省は黙認している。

本来、山小屋は県から土地を借り受け、遭難防止・自然保護・登山者へ利益供与などが目的で運営されている。その山小屋が、異質な種を特別な環境に持ちこみ、あたかも自然であるような演出をすることは、正に「ヤラセ」で、何が何でも許される行為でない。肩の小屋は、この現状を速やかに改善し、今後二度とこの様な行為をしないと誓うべきである。また、監督機関の環境省は、厳然たる態度で指導・指示・改善を促すべきである。